



本事業は、SDGsの「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」に資する取組です。

2021年12月17日(金)
あいち産業科学技術総合センター
企画連携部企画室
担当 福田、半谷、加藤
ダイヤル 0561-76-8306
愛知県経済産業局産業部
産業科学技術課科学技術グループ
担当 伊藤、谷川、松崎
内線 3382、3384
ダイヤル 052-954-6351
公益財団法人科学技術交流財団
知の拠点重点研究プロジェクト統括部
担当 佐野、安藤、田草川
ダイヤル 0561-76-8380

知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期

技術セミナー「人工知能型対話技術のビジネス活用」の参加者を募集します！

愛知県と公益財団法人科学技術交流財団では、産学行政連携の研究開発プロジェクト「知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期^{*1}」を2019年から実施しています。

このうち、「先進的 AI・IoT・ビッグデータ活用技術開発プロジェクト^{*2}」の「分野適応技術による自然言語処理技術のビジネス展開^{*3}」において、豊橋技術科学大学の井佐原特命教授らの研究チームは、文章から知識を取り出す人工知能(AI)技術、機械翻訳の分野適応技術、人間とコンピュータとの対話技術の開発を進めています。特に、対話技術は、AI技術を用いて、チャットボット^{*4}の高機能化や、情報検索におけるユーザ満足度の向上、介護施設において被介護者と対話できる介護ロボットの開発など、当地域のビジネス現場での活用が期待されています。

この度、人工知能型対話技術のビジネス活用に関する技術セミナー「人工知能型対話技術のビジネス活用」を開催します。本セミナーでは、これらの研究開発成果を解説するとともに、活用事例の発表も行います。

参加費は無料です。多くの皆様の御参加をお待ちしています。

1 日時

2022年1月25日(火) 午後2時から午後5時まで
(受付開始：午後1時30分)

2 開催形式

会場及びオンライン配信

会場：愛知県産業労働センター(ウインクあいち)
15階 科学技術交流財団研究交流センター
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38 JR名古屋駅桜通口から徒歩5分)
※会場には公共交通機関を利用してお越しください

オンライン：Zoomによる配信

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、オンライン開催のみで実施する場合があります。

3 内容

(1) 基調講演（午後 2 時から午後 2 時 30 分まで）

「分野適応技術による自然言語処理技術の概要と対話システムの可能性」

講師：豊橋技術科学大学 特命教授／追手門学院大学 教授 井佐原 均 氏

(2) 学術講演（午後 2 時 30 分から午後 3 時まで）

「AI 技術を活用した産学連携による社会課題解決と DX 人材育成」

講師：名古屋大学 数理・データ科学教育研究センター 特任教授 中岩 浩巳 氏

(3) 企業講演（午後 3 時 10 分から午後 4 時 10 分まで、各講演 30 分）

「人工知能型対話システムのビジネス活用」

講師：グローバルデザイン株式会社 代表取締役 白旗 保則 氏

「人工知能型対話システムの構築技術」

講師：株式会社ウォンツ CS4 部 棚橋 優希 氏

(4) 技術相談（午後 4 時 10 分から午後 5 時まで）

希望者と個別に井佐原特命教授による技術相談を実施します。お申込みの際にお申し出ください。相談は 1 件 15 分程度で、先着順に 3 件受け付けますが、別日程でも希望される方には対応します。

4 対象

関係分野の研究・製品開発に取り組む研究者・企業関係者の方を始め、どなたでも自由に参加できます。

5 定員

会場：20 名、オンライン：40 名（申込先着順）

6 参加費

無料

※オンライン参加の場合、通信料は自己負担となります。

7 申込方法

会場参加、オンライン参加いずれの場合も以下の申込み URL 又は QR コードからお申込みください。

URL：<https://forms.gle/Y5brLcpaFnV98pUv5>

QR コード：



（QR コードは㈱デンソーウェーブの登録商標です。）

開催案内はあいち産業科学技術総合センター、愛知県経済産業局産業部産業科学技術課及び公益財団法人科学技術交流財団で配布するほか、以下の県産業科学技術課 Web サイトからもダウンロードできます。

<https://www.pref.aichi.jp/san-kagi/>

8 申込期限

2022年1月18日（火）

9 共催

愛知県、公益財団法人科学技術交流財団、国立大学法人豊橋技術科学大学

10 問合せ先

【重点研究プロジェクト全体に関すること】

- ・あいち産業科学技術総合センター 企画連携部
 - (1) 担当：福田、半谷、加藤
 - (2) 所在地：豊田市八草町秋合 1267 番 1
 - (3) 電話：0561-76-8306
- ・公益財団法人科学技術交流財団 知の拠点重点研究プロジェクト統括部
 - (1) 担当：佐野、安藤、田草川
 - (2) 所在地：豊田市八草町秋合 1267 番 1
 - (3) 電話：0561-76-8370

【本セミナーに関すること】

- ・公益財団法人科学技術交流財団 知の拠点重点研究プロジェクト統括部
 - (1) 担当：佐野
 - (2) 所在地：豊田市八草町秋合 1267 番 1
 - (3) メール：juten-pi@astf.or.jp
 - (4) 電話：0561-76-8370

11 会場参加の留意事項

感染防止対策として、当セミナーに会場参加される場合は以下の各項目に御留意ください。

- ・37.5度以上の発熱がある方、又は体調が優れない方は、御来場いただいてもセミナーの受講をお断りさせていただく場合があります（会場入口で検温を行います）。
- ・手洗い、消毒、マスク等による咳エチケットの徹底をお願いします。
- ・大声での会話など感染リスクの高い行為を行わないようお願いします。
- ・自らが使用する筆記用具、飲料水などは、各自で御用意いただくようお願いします。
- ・セミナー参加中、体調が悪くなった場合は、無理せずスタッフにお申し出ください。

【用語説明】

※1 知の拠点あいち重点研究プロジェクト

付加価値の高いモノづくりを支援する研究開発拠点「知の拠点あいち」を中核に大学等の研究シーズを活用したオープンイノベーションにより、県内主要産業が有する課題を解決し、新技術の開発・実用化や新たなサービスの提供を目指す産学行政の共同研究開発プロジェクト。2011年度から2015年度まで「重点研究プロジェクトⅠ期」、2016年度から2018年度まで「重点研究プロジェクトⅡ期」を実施し、2019年度から

は「重点研究プロジェクトⅢ期」を実施。

「重点研究プロジェクトⅢ期」の概要

実施期間	2019年度から2021年度まで
参画機関	19大学 12研究開発機関等 106社（うち中小企業68社） （2021年11月末時点）
プロジェクト名	・近未来自動車技術開発プロジェクト（プロジェクトV） ・ <u>先進的AI・IoT・ビッグデータ活用技術開発プロジェクト（プロジェクトI）</u> ・革新的モノづくり技術開発プロジェクト（プロジェクトM）

※2 先進的AI・IoT・ビッグデータ活用技術開発プロジェクト（プロジェクトI）

概要	モノづくり現場の設計・生産・検査から、農業・健康長寿までの幅広い分野において、AI・IoT・ビッグデータの活用を推進するとともに、ロボット高度化やエネルギー最適配分のための水素蓄電の技術開発に取り組む。
研究テーマ	① 大規模材料データ及びCAEによる自動車向け設計生産技術 ② 2次電池の材料開発/寿命評価用データベース構築とAI/IoT応用 ③ 5G/AIを活用したロボットプラットフォームとロボットサービスの研究開発 ④ <u>分野適応技術による自然言語処理技術のビジネス展開</u> ⑤ 中小工場を再エネ化する水素蓄電・ネットワーク対応AIエンジン ⑥ 直流スマートファクトリー実現に向けた変換装置の開発 ⑦ 農業ビッグデータ活用によるロボティックグリーンハウスの実現 ⑧ 幸福長寿な暮らしをかなえる自然に活動的となる住まいの研究開発 ⑨ AIを用いた粉体原料の物性に関する予測システムの構築
参画機関	11大学 10研究開発機関等 37社（うち中小企業23社）（2021年11月末時点）

※3 分野適応技術による自然言語処理技術のビジネス展開

概要	文章から専門用語や重要語句を自動抽出し辞書・用語集を自動作成する「知識抽出AIシステム」、個々の業界においてビジネスで利用可能な「分野適応型機械翻訳システム」および人間とコンピュータが相互の関係性の中で適切に判断し行動する、双方向のコミュニケーションを可能とする自然言語処理技術を用いた「寄り添い型対話システム」を開発する。
研究リーダー	豊橋技術科学大学 特命教授／追手門学院大学 教授 <small>いさほら ひとし</small> 井佐原 均 氏
参加機関 （五十音順）	〔企業〕 株式会社ウオンツ、グローバルデザイン株式会社、新東工業株式会社、シンフォニアテクノロジー株式会社、日本マイクロソフト株式会社、武蔵精密工業株式会社 〔大学〕 追手門学院大学、国立大学法人豊橋技術科学大学 〔研究開発機関等〕 あいち産業科学技術総合センター、公益財団法人科学技術交流財団、社会福祉法人さわらび会

※4 チャットボット

「チャット」と「ロボット」を組み合わせた造語。「チャット」は、テキストを使ってネット上でやりとりをすること、「ロボット」は、人が行っていた作業を自動的に実行するプログラムのことで、テキストや音声を通じて、自動的に会話するプログラムのこと。

知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期 技術セミナー「人工知能型対話技術のビジネス活用」

愛知県と（公財）科学技術交流財団では、「知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期」を2019年から実施しています。

このうち、研究テーマ「分野適応技術による自然言語処理技術のビジネス展開」において豊橋技術科学大学の井佐原特命教授らの研究チームは、文章から知識を取り出す人工知能（AI）技術、機械翻訳の分野適応技術、人間とコンピュータとの対話技術の開発を進めています。特に対話技術は

AI技術を用いて、チャットボットの高機能化や、情報検索におけるユーザ満足度の向上、介護施設において被介護者と対話できる介護ロボットの開発など、当地域のビジネス現場での活用が期待されています。

本セミナーでは、これらの研究開発成果を解説するとともに、その活用事例についての発表も行います。

参加費は無料です。多くの皆様の御参加をお待ちしています。

2022 **1.25** (火)
14:00 ~ 17:00

参加費無料

事前申込制

募集定員（申込み先着順）

【会場参加】

20名

ウインクあいち15階
研究交流センター*

【オンライン参加】

40名

Web会議システム
「Zoom」を利用

*：愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38
(JR名古屋駅桜通口から徒歩5分)

基調講演

分野適応技術による自然言語処理技術の概要と対話システムの可能性

講師 豊橋技術科学大学 特命教授
追手門学院大学 教授
井佐原 均

AI技術を活用した産学連携による社会課題解決とDX人材育成

講師 名古屋大学 数理・データ科学教育センター
特任教授 中岩 浩巳

人工知能型対話システムのビジネス活用

講師 グローバルデザイン株式会社
代表取締役 白旗 保則

人工知能型対話システムの構築技術

講師 株式会社ウォンツ
CS4部 棚橋 優希

希望者と個別に井佐原特命教授による技術相談を実施します。

お申込みの際にお申し出ください。先着順に3件受け付けますが、別日程でも希望される方には対応します。

講演

技術相談

共催・申込方法・申込期限・問合せ先

【共催】

愛知県
公益財団法人科学技術交流財団
豊橋技術科学大学

【申込方法】

会場参加、オンライン参加いずれの場合も以下のURL又はQRコードからお申し込みください。

URL

<https://forms.gle/Y5brLcpaFnV98pUv5>

QRコード

（QRコードは株式会社
デンソーウェーブの登録
商標です。）



【申込期限】

2022年1月18日（火）

【問合せ先】

公益財団法人 科学技術交流財団
知の拠点重点研究プロジェクト統括部
担当：佐野

メール juten-pi@astf.or.jp

電話 0561-76-8370

講演要旨

分野適応技術による自然言語処理技術の概要と対話システムの可能性

講師 豊橋技術科学大学 特命教授／追手門学院大学 教授
井佐原 均

要旨 人工知能型対話システムを中心に知の拠点重点研究プロジェクトで我々が行っている研究（文書からの知識獲得、分野に適合した機械翻訳、寄り添い型対話）の概要を述べる。また対話システムの要素技術である検索技術が様々な場面に応用できることを示す。

AI技術を活用した産学連携による社会課題解決とDX人材育成

講師 名古屋大学 数理・データ科学教育研究センター 特任教授
中岩 浩巳

要旨 名古屋大学では、岐阜大学、三重大学、広島大学と連携して、AI技術を活用し企業や自治体が持つデータからの新たな価値の創造、課題解決をする能力を養成するための、産学連携による実践データティスト育成プログラムを進めている。本講演では、本プログラムについて、AI技術を用いた社会課題解決のため実世界データ演習を中心に紹介する。

人工知能型対話システムのビジネス活用

講師 グローバルデザイン株式会社 代表取締役
白旗 保則

要旨 人工知能型対話システムを利用することで、24時間365日間合せに対応でき、業務の省力化や効率化にもつながる。より精度を高めるためには技術だけでなくコンテンツの質もカギとなる。自治体での導入事例と検証結果を踏まえ、今後のビジネス活用の可能性を探る。

人工知能型対話システムの構築技術

講師 株式会社ウォンツ CS4部
棚橋 優希

要旨 人工知能型対話システムを実現している自然言語処理技術(BERT)について解説する。特に対話における意味理解・応答を行う上でのポイントについて、例示を交え説明を行う。また、現在の実利用例を基に今後の更なる応用・発展を検討する。

BERT : Bidirectional Encoder Representations from Transformers